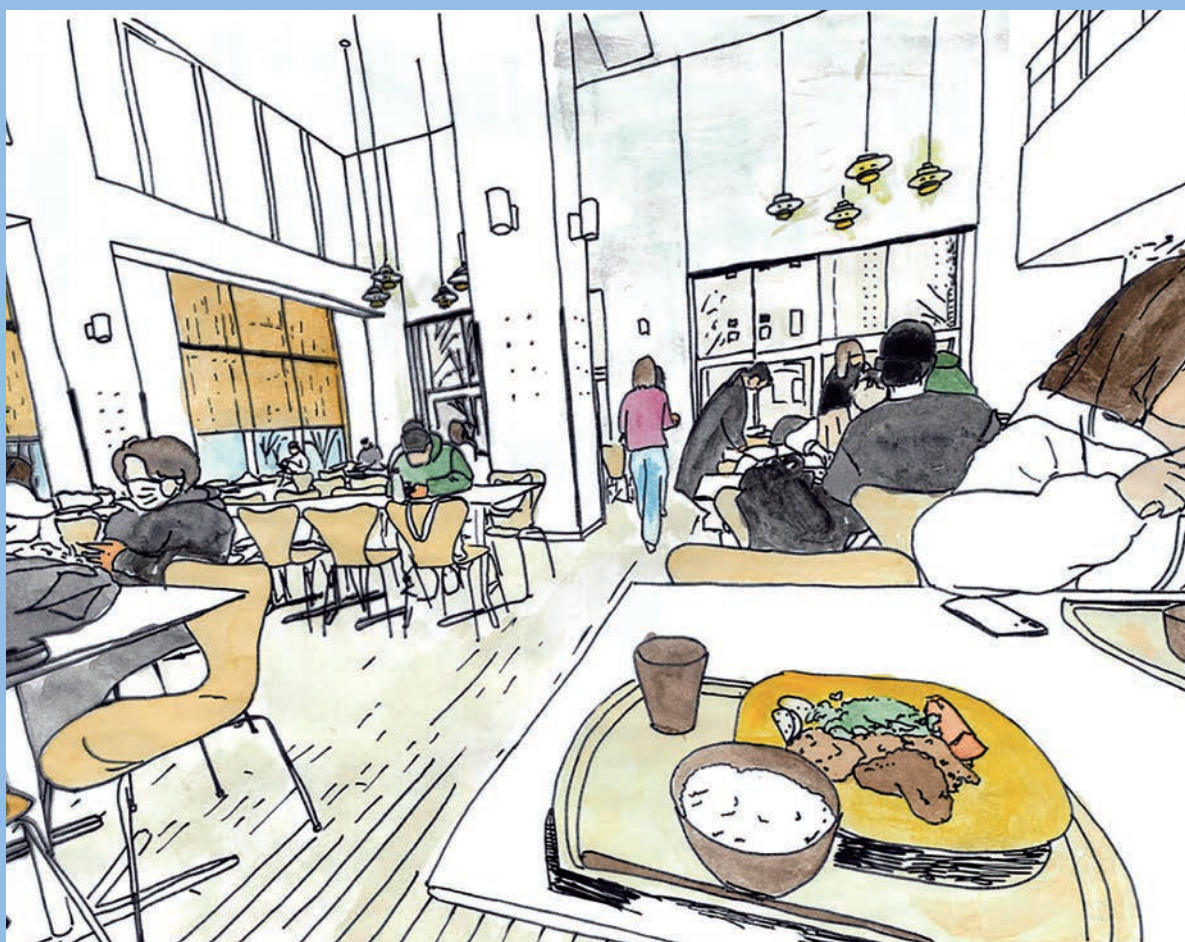


# 公益大ニュース No.14

02入学者が過去最高，03着  
任しました，04—06研究活  
動，06上梓しました，07教  
育活動，08—09お答えしま  
す，10—11地域・学生活動



# 入学者、過去最高に



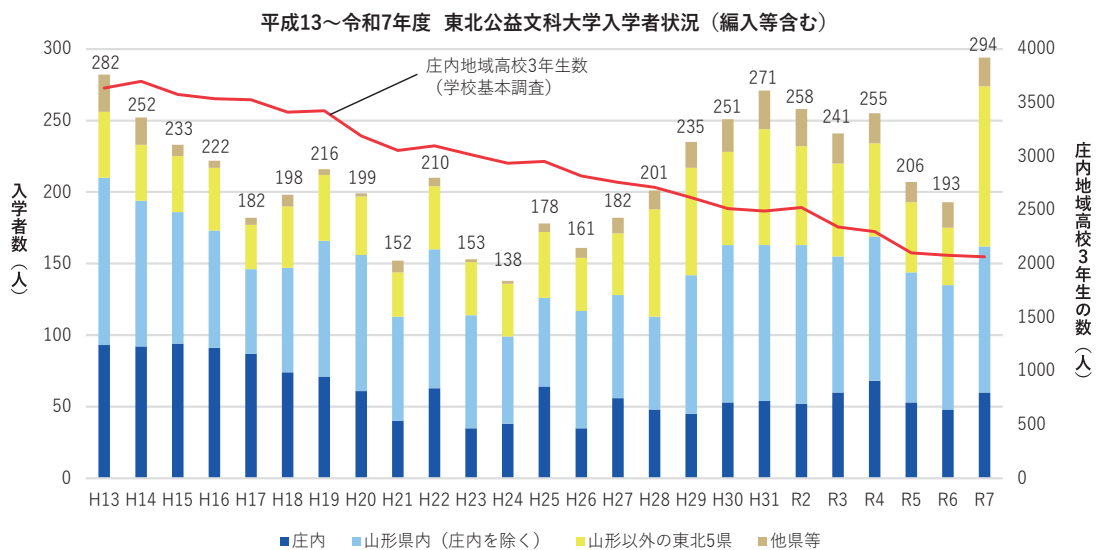
東北公益文科大学の学部入学生は、2025（令和7）年度に1年次287名、編入7名の合計294名で、開学以来最多となりました。内訳は山形県内167名（うち庄内60名）、山形県外127名で、特に県外出身者は前年度の58名から倍増しました。

入学者増の主な要因として考えられるのが、オープンキャンパスと高校訪問活動の強化です。近年、オープンキャンパスは、生徒だけではなく保護者も一緒に参加します。そこで、家族全員が納得して本学を志望してもらえるようなプログラムを構成しました。高校訪問では、訪問時期ごとのトピックス資料の提供や募集担当者間のノウハウ共有等の施策を徹底しました。他にも、これまで

志願者の少なかった地域を開拓したことや、強化指定部の入学者増などが要因として挙げられます。

さらに追い風になったのが、2026年度の本学公立化に向けて本学と県、庄内2市3町が昨年8月に基本合意したことです。山形県内はもちろん、国公立志向が根強い東北の高校現場には大きなニュースとなり、年明けの学力系選抜での志願者増にもつながりました。

（入試事務室長 佐藤英美）



## ユニット制導入 垣根超え多様な学びへ

本学は、教学改革の一環として令和7年度から公益学部公益学科でコース・ユニット制を導入しました。公益学部は全国の大学の中で本学にしかなく、1学部1学科ですが、学修内容を6コースに分類し、総合大学と遜色がないほど幅広く学ぶことができます。1年次は各コースの基礎を学び、2年次にもっとも関心のあるコースを一つ選択します。コース内の学びを専門分野ごとのユニットとして体系的にまとめることでより分かりやすくし、あるユニットに学びの軸を置きな

コースごとのユニットの構成

コース	ユニット
経済・経営	経済学/経営学/会計学/心理学
政策	法学/政治行政/公共政策
地域福祉	福祉政策/地域福祉/ソーシャルワーク
国際教養	英語/文化論/国際関係
観光・まちづくり	社会・空間/まちづくり/観光
メディア情報	データサイエンス/AI・機械学習/ソフトウェア/Society5.0

がら、幅広く学べるようにしています。

本学のコースは学部や学科でないため、各コースの垣根を越えて学びやすいことが特徴であり魅力です。

ユニット制は、所属していないコースの専門分野であっても、体系的に履修して深く学ぶことに有効です。軸を持ちつつ複数の専門性を組み合わせ、社会課題に対応する力を築いてもらいたいと考えています。

（公益学部長、教授 三木潤一）

お待ちしております！



公益大のキャンパス、教育内容、学生生活を紹介します！

オープンキャンパス	8/24(日)、9/21(日)、10/19(日)、2026年3/29(日)
公翔祭 (学園祭)	10/11(土)~10/12(日)



## 星 宏人 教授

### 国際教養コース

ほし・ひろと 米国コネチカット州立大学言語学科博士課程修了。英国ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)Lecturer、スペイン・バスク大学文献・地理・歴史学部Visiting Professor、秋田大学教育文化学部教授などを経て、2025年4月から現職。秋田大学名誉教授。

4月に東北公益文科大学に着任しました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は米国で博士号を取得後、イギリスとスペインで合計10年間、教育・研究に携わり帰国しました。帰国後は秋田大学で約20年間教鞭をと

## 自ら学び、未来を切り開く

り、2025年3月に退職しました。2021年4月から3年間は秋田大学教育文化学部附属中学校長を兼務しました。

私の研究分野は言語学・英語学です。最近の研究では、他者とのコミュニケーション(言語運用)に於いてヒトが心の中に順次どのように統語・意味構造を創り出しているのか、そのプロセスに注目し研究しています。言語運用を完全に捨象してヒトの言語の特徴を明らかにしようとする生成文法理論には根本的な問題があると論じています。

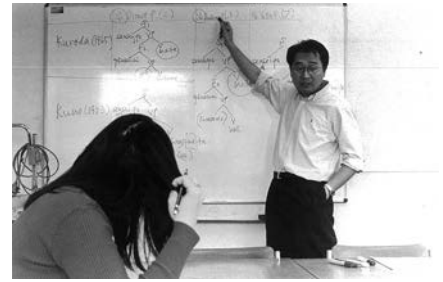
アメリカ留学前、日本では早稲田大学で学びました。大学教育が学生にとっても丁寧になった今では信じられ

ないのですが、当時の早稲田には「自分で学べ」という雰囲気、伝統がありました。ですから、先生からの研究指導はほとんどなく、苦難が多く、非効率的でした。しかし、自分の未来は自分で切り開かなければ

ならないあの時代があったからこそ、後に勇気を振り絞ってアメリカに留学し、ヨーロッパで

教鞭をとって帰国し、日本の大学で教え、中学校長も何とか務められたのかもしれないと感じていま

す。本学の学生にも、学生時代に苦労して何かを掴み取ってもらえたらと思っています。



英国では「日本語の構造」の講義を8年間担当していました(ロンドン大学(SOAS)同窓会誌2000年夏号)

# 着任しました

## 平居 悠 講師

### メディア情報コース

ひらい・ゆたか 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻博士課程修了。理化学研究所計算科学研究センター基礎科学特別研究員、東北大学大学院理学研究科、米国ノートルダム大学物理天文学科日本学術振興会特別研究員-CPDなどを経て、2025年4月から現職。

メディア情報コースに着任しました平居悠です。私は天文学、特に銀河考古学を専門としております。銀河考古学では、星の元素組成や運動から過去の銀河の姿を読み解きます。スーパーコンピュータを用いた銀河形成シミュレーションで天の川銀河形成や元素の起



短期留学先のイギリス・ケンブリッジ大学で。

源を明らかにすることを目指しています。

学部では物理学を学び、卒業研究で宇宙航空研究開発機構(JAXA)に通って月周回衛星「かぐや」のデータを使った月表面の元素分布の研究をしました。

サークルは英語会に所属し、

英語でのディスカッションや観光地で外国人観光客向けのボランティアガイドなどを行いました。

写真は学部2年生でイギリスへ短期留学したときのものです。日本と異なる文化に触れ、視野が大きく広が

たとともに、日本の良さも再発見できました。大学院では国立天文台で研

究に取り組み、学問の奥深さを実感する日々を過ごしていたことを覚えています。

学生の皆さんには、公益大で幅広い分野の基礎をしっかりと学んで欲しいです。留学やサークル活動などにも積極的に参加し、若いうちにしかできない経験をして視野を広げましょう。皆さんがきらりと光る一つの星となって社会で活躍する姿を見るのを楽しみにしています。





## ベストアワードに 森元 拓 教授 ベストティーチャーに 松尾慎太郎 准教授



本学は優れた研究成果を上げた教員を表彰する2024年度の「ベストアワード」に森元拓教授（写真左下）を、教育実践に顕著な成果を上げた教員である「ベストティーチャー」に松尾慎太郎准教授（右下）を選びました。3月31日、神田直弥学長らが出席し学内で授賞式を開きました。

## 出版まで2年、「産みの苦しみ」も

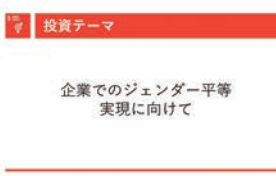
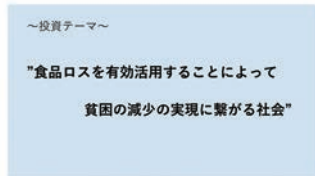
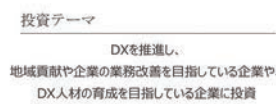
教授 森元 拓

ベストアワードの受賞、誠に有難うございます。

今回、評価頂いたのは、私が分担執筆で参加した『法学者たちと出版－戦後日本法学の知的プラットフォームをたどる』（弘文堂、2025年）という書籍です。法学は、学者だけではなく、弁護士や公務員等の法律職だけではなく、広く社会一般の人々にも関係します。このため、法学では、他の学問と異なり、書籍や雑誌の出版が大きな役割を担っています。多くの法学者はこのことを認識していましたが、この点を研究したものは存在しませんでした。本書はこの点を主題としています。

本書には様々な分野の研究者が参加し、企画から

出版に至るまで約2年間かかっています。どの著書や論文も作成するには多かれ少なかれ苦勞があります。「産みの苦しみ」というやつです。とはいえ、本書の苦勞は格別のものがありました。特に、資料収集には苦勞し、本学図書館の皆様には本当にお世話になりました。ですので、このような形で評価いただけたのはとても嬉しく思います。重ねて有難うございました。



証券投資プロジェクトで学生が設定したテーマ例

ベストティーチャーを受賞することができ、大変光栄に思います。いつも教育研究環境を整えてくださっている職員の方々、教授法を共有し切磋琢磨した同僚の先生方、そして、答えのない問いに対して一緒に考え続けてくれた学生みなさんに感謝しています。

今では、地球の裏側にいる人とでもオンラインツールを活用し、共同で成果を生み出すことができます。その可能性を学生に感じてもらいたかったので、「基礎演習b（ディベート）」、「証券投資プロジェクト」

## 一緒に「考え続けよう」

准教授 松尾慎太郎

や「POSデータ分析で売り場改善」といった演習科目で情報共有や報告資料の共同作成にTeamsを活用しました。このオンラインツールのメリットは地理的・時間的な問題の克服にとどまりません。考えても考えても答えの出ない問いを考え続けることは苦しいことです。オンラインツールの活用は、投げ出さずに一緒に考え続けてくれる仲間がいることを教えてくれます。

「とりあえずやってみる」が強調される時代です。私は、「よく考えた」うえで、やった後も「考え続ける」ことを大切にしたいです。時には立ち止まって考えること、スタート地点に引き返すことも必要かもしれません。未来に対して無責任な大人にならないために私自身への戒めを込めて「そうだね、考えよう」。

# 若手・女性研究者奨励金に2氏

日本私立学校振興・共済事業団による2025年度の若手研究者奨励金に本学の藤原良太助教の研究が、女性研究者奨励金に張紅助教の研究が選ばれました。「若手」「女性」の両方が採択されたのは本学で初めてです。両氏にそれぞれの研究内容について解説してもらいました。



藤原良太 助教

学校への包摂と相互行為に関する社会システム理論を応用した分析  
——通常高校に就学する「知的障害児・者」の事例に注目して

## 知的障害児の進学実態に迫る

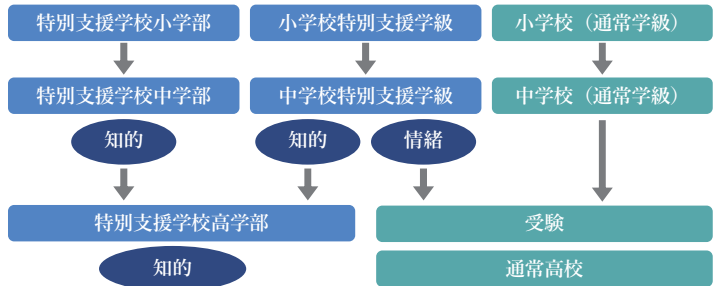
今回採択された研究課題では、通常高校に進学した「知的障害児・者」の生徒が、どのような相互行為に参加することが可能になっているのかを検討します。

障害者権利条約の実施状況の審査を受けた日本は、分離された環境が明確に批判されました。教育は能力の発達だけではなく、他者と共に様々な場面に参加することを通して自他に対する考え方を育てることができる改革が要請されています。

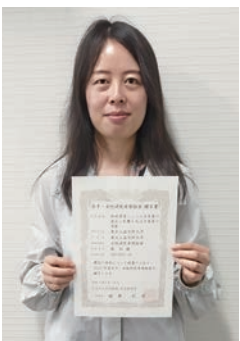
高校では受験者が募集定員に満たなくても「知的障害児・者」が不合格になる事案が多数起きている一方で、「重度」の「知的障害児・者」でも進級・卒業している事例が複数あります。後者では学力以外の何かが学校関係者の間で考慮されている可能性があります。そこで何が考慮されて、それによって生徒は学内外の活動にどのように参加しているのかを、生徒本人や親、教員、支援者たちの記録と証言をもとに明らかにします。

これによって現在の日本の通常教育制度ではほとんど考慮されていない「知的障害児・者」について、学校が生徒の排除／包摂をどのように左右しているかを分析します。

「知的障害」生徒と「情緒障害」生徒の主な進路の比較



「千葉県の特別支援教育」（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課、2022年）をもとに藤原作成



張紅 助教

地域資源としての古民家の再生に影響を及ぼす要素の考察  
——山形県庄内地域を対象として

## 古民家保全の条件探る

女性研究者奨励金に選出いただき、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

研究課題は、山形県を対象とした歴史的建築物、特に古民家の保全と利活用に関するものです。山形県は、全国でも重要伝統的建造物群保存地区が未選定の数少ない地域の一つです。しかし、県内には古民家が散在しており、現在それらの利活用活動が進められていることから、地域資源としての潜在的な価値の高さがうかがえます。

本研究では、それら古民家の所有者に着目し、保全や利活用に関する意思決定の過程を時系列的に分析することで、どのような社会的・経済的要因が関係し、それらがどのように組み合わされて保全などの判断に至るのかを明らかにすることを目的としています。また、古民家の建築的特徴や立地条件、地域コミュニティとの関係性なども合わせて分析し、古民家が地域資源として果たす役割を多角的に検討します。

今後は現地調査を通じて実態を把握し、成果を広く発信してまいります。



## 公益大大学院が20年

# 変革期に学際研究 成果を地域に還元

東北公益文科大学大学院 公益学研究科は、世界で唯一の公益学の研究・教育拠点として、学部開学の4年後、2005年4月に鶴岡市に誕生しました。2025年3月末までに171名の公益学修士と5名の公益学博士を輩出しています。

21世紀の国際社会は、環境、経済、人権をはじめとする多くの社会課題と向き合い、多様な組織や個人のパートナーシップにより新しい社会システムの構築を推進することが求められています。本大学院では、「社会変革期における課題解決に向けた公益学研究・教育と社会連携の推進」をビジョンに掲げ、公益学研究科ならではの学際的な教育研究に取り組んでいます。

大学院生の研究テーマも、行政学、経済学、法学、政治学、歴史学、教育学、社会学、社会福祉学、心理学、情報科学、人間工学をはじめとする複数のディシプリン（専門分野）を基盤とする学際的な知見と方法に基づいています。修了生はその研究成果を職場や地域社会に還元し、活躍しています。

2022年度に開始した大学院改革では、教員の研究の深化と専門分野の可視化・発信に取り組んでいます。その

### 公益大 大学院の歩み

2005年度	東北公益文科大学大学院公益学研究科公益学専攻（修士課程）を鶴岡キャンパスに開設
2007年度	大学院公益学研究科公益学研究専攻（博士後期課程）を開設
2012年度	修士課程の入学者が累計で100名を突破
2013年度	初の公益学博士が誕生
2018年度	公益学研究科にスクールソーシャルワーク教育課程を設置（山形県内での設置は初、大学院では全国初）
2021年度	外国人留学生として初の公益学博士の誕生（2名）
2022年度	修士課程の研究領域を現在の組織経営、国際関係、情報科学、地域共創の4領域に改編
2024年度	修士課程の入学者が累計で200名を突破

の一環として、荘内日報社発行の情報紙『敬天愛人』に、教員等によるリレー・エッセイ「公益の風」を掲載して頂いています。その掲載記事の一部を大学院開設20周年記念誌として刊行しました＝上写真。是非ご覧ください。（公益学研究科長、教授 武田真理子）



<https://x.gd/Q4CmXS>



色紙を使ったワークショップで、修復的対話（RJサークル）の方法を学びます（スクールソーシャルワーク教育課程）

## 上梓しました

武田真理子、伊藤真知子、加留部貴行編著

### 『地域共創のすすめ 人がまなぶ、人がつながる、地域がつながる』



本書は、本学で2016年より開講している「地域共創コーディネーター養成プログラム」の軌跡と成果の紹介を通して、多様な大人の「学び」と「運営」、そして「実践」の三要素の循環による「地域共創」の価値について発信しています。同プログラムは、大学院「共創の技法」等の科目を公開し、多様な参加者のファシリテーションとコーディネーション力の育成に取り組んでおり、2024年度までに188名の修了生を送り出しました。

共編者3名と、行政、企業、NPO、地域コミュニティ組織などで活躍しているプログラム修了生16名が2年をかけて執筆しました。多くの方にお読み頂けますと幸いです。

（北樹出版、184ページ、2,420円）

# プロジェクト型応用演習 「住民主体の地域づくり応援プロジェクト」 地域づくりに学生が伴走

本演習のフィールドは、鳥海山麓に位置する酒田市日向地区。同地区では、農林水産省が推進する「農村型地域運営組織」（以下、農村RMO）の形成に取り組んでおり、学生たちはその活動に伴走しながら地域づくりの手法を学んでいます。

2025年6月1日のフィールドワークでは、地域づくりの基盤をつくってきたコミュニティ振興会の歩みについて学んだ後、活動の拠点であるコミュニティセンターや、2019年に住民・行政・企業・大学が関わり開設したコミュニティカフェ「日向里かふえ」を見学しました。



農用地保全・地域資源活用・生活支援・アプリ開発の各部門に分かれて計画を検討しました（2025年6月）

その後、農村RMO「日向ふるさとづくり協議会」の「はじまりの会」に参加。2025年度のアクションプランを協議会のメンバーやサポーターの皆様とともに検討しました（右上写真）。学生たちからは「住民の方々の話を聴き自分の目で見ることにより立体的に地域を理解できた」「良い地域にしたいという強い思いに圧倒された」「授業以外でも活動に関わっていきたい」等の感想が挙げられました。



フィールドワークでは夏祭りの運営にも参加します（写真は2024年7月の様子）

今後も学生たちが、各地で行われている“住民主体の地域づくり”に、大学生として、また将来各自が目指す職業において何ができるかを考え、今後につなげられるよう授業を展開していきます（准教授 小関久恵）

（挿見）  
**注目授業**

## 探究演習「ドローイング」 空間把握と、統合のための手法

表紙をご覧ください、これが演習の作品です。いいでしょう。でも、誰にでもできるんです。写真をトレースするので、出来栄ははいねいになぞったかどうか、美術が苦手だった人も大丈夫です。農村のスケッチから始め、平面図や鳥観図と、段々複雑な表現に進み、最後はA1のポスターをパソコンで制作します。これができれば、学会発表も、プロポーザルも、あるいは会社に入ってからプレゼンテーションでも通用します。1年



オープンキャンパスでは高校生が挑戦。初めてなのに30分でよく描けました！

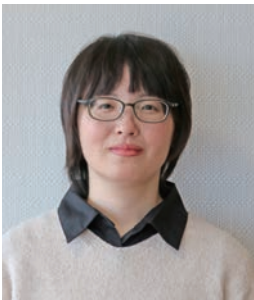
生の終わりにここまでできるようになります。では、なぜこうした演習が必要なのか、それを説明しましょう。空間に関わることを文章で表現しようとするとう無理が生じます。企画書、報告書の多くが抽象的な記述に留まりやすいのは、空間に関する素養がないからです。また学問は分析を特徴としますが、今、専門化細分化の弊害に苦しんでいます。分析から生まれたツリー型の組織や思考の問題点が指摘されています。縦割りの弊害と言いますね。「都市はツリーではない」と検索してみてください。建築＝アーキテクチャーの原義は「諸技術を統べる」ということですが、ドローイングを繰り返すことで空間は把握されるのです。（教授 温井 亨）

# お答えします

素朴な疑問から地球規模の難題まで——  
あらゆる「？」に本学教員がお答えします。

**Q.** お金がなくて困っています。どうしたらいいですか？

**A.** 当座のお金をなんとかしつつ、精神的健康のケアの時間もしっかりとりましょう。



回答者：  
准教授 渡辺伸子

できることから、豊かであること、もしくは貧しい状態にあることをより把握しやすくする側面があるかもしれません。

さて、お金がないとのことですね。何に使うお金がないのかにもよりますが、お金がないために欠食する、入浴を我慢するというレベルになると、まずはとにかくお金を手に入れて標準的な生活水準を目指す必要があります。これには、信用できるところからお金を借りることや、労働する（労働時間を増やす）ことなどが有効です。

ところで、「お金がない」という認識をもっている人は、精神的な健康状態が損なわれているという心理学の研究があります（機序は下図）。「お金がない」という認識をもっている人は、抑うつや不安も高い水準となります。そのため、いろいろなことがおっくうになったり、普段より些細なことが心配になったりしてしまいます。

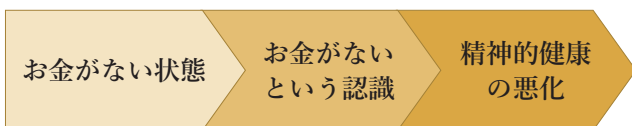


図 お金がないことと精神的健康の関連

総合すると、お答えはこうなります。つまり、「実際にお金が足りない」状態に対しては、お金を増や

す方法を具体的に実行していく。一方で、実際にお金が足りなければ、「お金がないという認識がある」状態になり、精神的な健康があまりよくない状態であることが予想されるため、精神的健康のケアの時間も十分もつ必要がある。

では、精神的健康のケアには、どんな方法があるでしょうか。最もメジャーなのは、軽い運動です。ストレッチやヨガなどは、室内でも行えますし、YouTubeにお手本となる動画がたくさんあるので手軽に始められます。室外の運動としては、ウォーキングやジョギングが推奨されています。



「お金がない」という認識は、精神的健康と関連している

また、運動以外では、親しい人とおしゃべりすることも有効です。水筒に麦茶を詰めて、公園でしゃべればほぼ無料です。また、笑うというのも大切です。テレビでお笑いを見るのもいいかもしれません。

普段から、自分に合ったストレス解消法を見つけ実践しておけば、不意に強いストレスに曝されたときにも安心です。いまはお金にも困ってなくても、強いストレスもないという人でも、念のためと思って自分に合うストレス解消法を探しておくことをオススメします。

お金がなくても、ここまで貧しくなる必要はありません。頑張りつつ休みつつ、困難に対処していきたいものです。

**Q.** サーキュラーエコノミー（循環型経済）を実現するためにどのようなことをすべきでしょうか？

**A.** サステナビリティ教育の強化や技術開発に加え、企業のビジネスモデル再構築などの多角的なアプローチが必要です。



回答者：

教授 古山 隆

サーキュラーエコノミー（Circular economy：循環型経済）は、大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とし、気候変動や生物多様性の喪失など様々な負の外部性をもたらす「Take（資源を採掘して）」「Make（作って）」「Waste（捨てる）」というリニアエコノミー（Linear economy：直線型経済）システムに代わる新たなシステムです。その起源は1960年代にさかのぼります。当時は、環境問題が顕在化し始め、特に資源の枯渇や環境汚染が深刻な課題とされていました。1970年代には、環境保護の重要性が広まり、リサイクルや廃棄物管理の必要性が強調されるようになりました。1990年代には、サステナビリティに関する意識が高まり、特に欧州連合（EU）がサーキュラーエコノミーの概念を取り入れ始めました。2015年にはEUが「サーキュラーエコノミー行動計画」を発表し、廃棄物の処理から再利用、リサイクルを促進する政策を打ち出しました。この動きは、サーキュラーエコノミーが単なるリサイクルの枠を超え、経済全体の構造改革を目指すものであることを示しています。

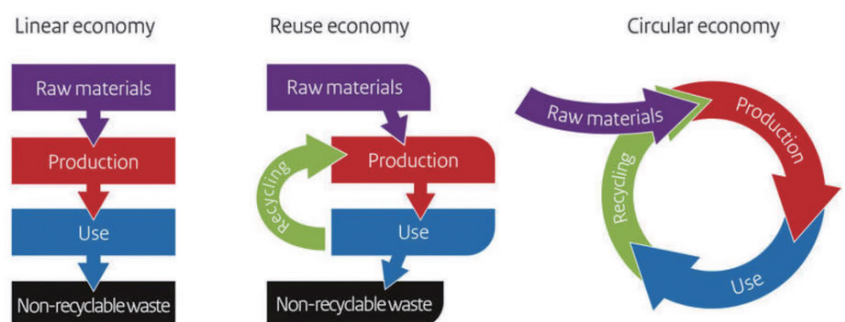
2050年までに100%サーキュラーエコノミーを実現するという目標を掲げているオランダ政府は、サーキュラーエコノミーの概念を図のように説明しています。図の中央にあるリユースエコノミーにおいては、従来の3R（Reduce：廃棄物の発生抑制、Reuse：再利用、Recycle：リサイクル）の考え方をベースに、廃棄物の一部を再資源化することを目指しているものです。それに対して、図の右にあるサーキュラーエコノミーでは、そもそもの原材料調達や製品・サービス設計の段階から資源の回収や再利用を前提としており、廃棄物の概念は存在していません。

現在、世界中でサーキュラーエコノミーの実践が進んでいますが、いくつかの課題が残っています。まず、消費者の意識と行動が依然としてリニアエコノミーに偏っており、多くの方がリサイクルや再利用の重要性を理解しながらも、実際の行動には結びついていないのが現状です。企業もサーキュラーエコノミーにシフトする際のコストやリスクを懸念している場合が多いです。特に小規模企業にとっては、循環型のビジネスモデルへの移行は大きな負担となり得ます。さらに、インフラや技術の整備が不十分な地域では、サーキュラーエコノミーの実現が難しい状況にあります。

サーキュラーエコノミーを実現するためには、消費者や企業に対するサステナビリティ教育を強化し、循環型の考え方や行動を促進することが重要です。学校教育や地域のワークショップなどを通じて意識を高める活動が求められます。また、新しい技術の開発や導入が必要です。特に、廃棄物の分別やリサイクル技術の向上が求められます。一方、企業は製品ライフサイクル全体を見据えたビジネスモデルの構築が求められます。製品の設計段階からリサイクルや再利用を考慮することで、廃棄物を減らすことができます。

サーキュラーエコノミーは、持続可能な社会を実現するための重要なアプローチです。歴史的な背景を踏まえ、現状の課題を克服するためには、個人や企業さらには政府が協力し合い、新たな価値を創造していくことも求められます。

図 サーキュラーエコノミーの概念図



出典）オランダ政府「A Circular Economy in the Netherlands by 2050」

# 菜の花むすめ対談

2024年度 児玉愛華=こだま・あいか  
政策コース3年（山形県立鶴岡南高校出身）

2025年度 伊藤紗良=いとう・さら  
国際教養コース4年（山形県立鶴岡北高校出身）



三川町観光協会が募集する「菜の花むすめ」に本学学生が2024年度、2025年度と続けて選ばれました。庄内地域の魅力を発信しようと県内外で活躍する2人に、活動を通じて得たことなどを話してもらいました。

**伊藤** 応募のきっかけはどんなことでしたか。

**児玉** 募集ポスターを見た母の薦めで応募しました。菜の花を背景に写った写真がきれいで、挑戦したい気持ちになりました。



児玉さん（三川町観光協会提供）

**伊藤** 私の場合は小学生のころから、いつか自分もと思っていましたが、勇気が出せませんでした。卒業後は県外に就職するつもりなので、これが最後の

**児玉** 活動で印象に残っているのは、酒田港でのクルーズ船の見送りでしようか。海外からいらした乗船客も多く、授業で学んだ中国語やロ

シア語が役に立ちました。「ありがとう」ぐらいの簡単なあいさつですが、とても喜んでくれました。

**伊藤** 私も英語で海外の人たちと話す機会が多いことがうれしいですね。旅行も好きなので、行った先でおいしいものを食べるのも楽しみです。

**児玉** 菜の花むすめは基本的に2人一組で行動しますが、仙台市での観光イベントのときはスタッフと私1人で、少し不安でした。がんばって大きな声で呼びかけたら、足を止めてくれたお年寄りがいて、楽しそうだから庄内に行きたいと言ってくれました。

**伊藤** 菜の花むすめに選ばれて、アルバイト先など多くの方々から声を掛けていただきました。もともと

引っ込み思案でしたが、家族や知人が応援してくれたことで、挑戦して良かったと思えました。

**児玉** 保育園以来の友人がイベントに訪ねてきてくれて、久しぶりに話せたときはうれしかったです。

**伊藤** 私は鶴岡市の旧藤島町出身なので、三川は隣町です。大型店で買い物をする場所というイメージが強かったと思います。しかしアトク先生の館などの見どころがあり、おいしい飲食店もあることを多くの人に知ってもらいたいです。

**児玉** ずっと庄内で暮らしてきて三川町のことは知っているつもりでしたが、地元のお祭りなど多くの発見がありました。

**伊藤** 1年間やってみて何か困ったことは。私は撮影会で自然な表情を出すのに苦労しました。

**児玉** 私も同じです。多くの人にカメラを向けられる体験はなかったので、笑ったつもりでも顔が引きつってしまいました。

**伊藤** 菜の花むすめをお引き受けすることになり、多くの方々とうまくコミュニケーションを取っていくことなど、自分の将来にとって大きな財産になると思います。

**児玉** そうですね。庄内の魅力を伝えるなかで、ふだんはなかなか得られない機会をいただいたことに感謝しています。



伊藤さん（同）

児玉／中国語、ロシア語で観光客と会話  
伊藤／多くの人々と交流、将来の財産に

# 本学後援会事業 行ってきました「一流体験」

向上心があり学ぶ意欲の高い学生に、世界や日本を代表する一流の人物や仕事に触れ教養を高めることを目的とした「一流体験合宿」プログラムを本学後援会よりご提供いただいています。2025年2月19日（水）



～21日（金）の2泊3日にて首都圏で研修を実施しました。

学内で開いた事前研修では上野隆一後援会長より「一流のものに触れることで心を見聞を広め、知恵を深めることになる」「自ら手を挙げて行動することでポジティブな人生を」とエールをいただきました。

参加した学生からは、「自分から行動してみる大切

さを学んだ」「プロフェッショナルの責任感を感じることができた」といった感想が寄せられました。



貴重な学びの機会を与えていただいた本学後援会の皆様に深く御礼申し上げます。

（地域共創センター事務室長補佐 進藤 啓）

## Schedule

- 1日目** 庄内 → 羽田  
日本経済新聞社東京本社(上写真)で講話
- 2日目** 東京証券取引所で見学・講話  
舞浜アンフィシアターにて劇団四季「美女と野獣」鑑賞  
オリエンタルホテル東京ベイにてテーブルマナー研修
- 3日目** ANA Blue Hangar(機体整備工場=左写真)見学  
羽田 → 庄内

## データでみる公益大

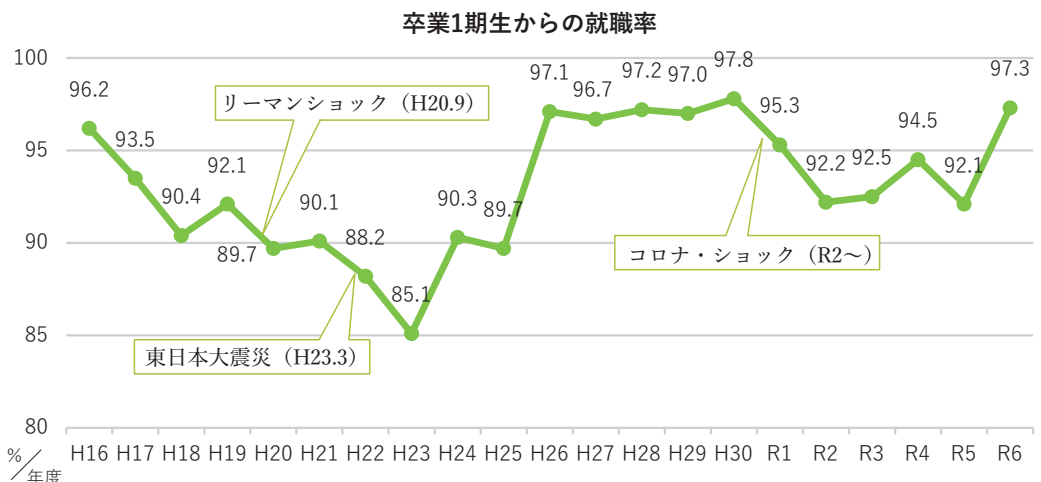
# 就職率、R6年度は過去2番目の高率に

本学における令和6年度卒業生の就職率は下のグラフのとおり、過去2番目に高い97.3%となりました。

就職希望者に占める就職者の割合である就職率は、全体の景気動向を映して変動してきました。ここ数年は92%～94%台で推移していましたが、今回、大幅に上昇しました。上がった理由としては、①公務員の1次試験通過者のうち、2次試験合格率が82.6%（令和5年度は60.0%）と高かったこと、②民間企業では就職意欲が高い学生が全体の意識を盛り上げ、内定獲得に好影響を与えたこと、③ゼミ担当教員とキャリア開発センター職員が連携し、学生に対し継続的に就職活動の支援（学習方法の指導、エントリー・シートの添削、模擬面接指導など）を実施したこと——が挙げられます。

就職先を地域別（本社所在地で集計）に見ると、県内が39.8%、県外は60.2%となり、県内比率はほぼ例年並みでした。

（就職部長 池田 裕）





## 「都市史と地域史」 本学図書館で9月まで開催中

都市史では、写真のイタリア・シエナのように、都市とその周りの田園風景が守られるに至った過程と、山形市立一小の保存再生を中心に展示します。地域史では、酒田の山王祭神宿に送られた品物目録と、難破した北前船の古文書を展示して解説します。飽海地域史研究会の小野寺雅昭会長との共同作業です。両者の歴史研究が繋がっているところまでお見せできたらと考えています。（教授 温井 亨＝写真も）



# 東北公益文科大学

Tohoku University of Community Service and Science

<https://www.koeki-u.ac.jp/>

読者アンケート実施中！  
先着で大学ロゴ入りアイテム  
をプレゼント！



**編集後記** 本学では2026年春の公立大学法人移行を目指し、機能強化などの取り組みが本格化しています。すでに内外から注目され、2025年度の入学者は過去最高となりました。多くの期待に答えられるよう一段の改革を進める公益大の姿をお伝えします。（加藤）

**編集スタッフ** 加藤嘉明（編集長、特任教授）、温井 亨（表紙デザイン、教授）、樋口恵佳（准教授）、張 紅（助教）、進藤 啓（地域共創センター）、小野田葉奈（同）

**表紙イラスト** 松永萌愛（観光・まちづくりコース2年）

## 「公益大ニュース」14号 2025年8月発行

発行者：学校法人東北公益文科大学 〒998-8580 酒田市飯森山3丁目5番地の1

Tel：0234-41-1115 Email：kyoso@koeki-u.ac.jp（地域共創センター）